

評価の視点の整理(案)

	政策的な視点	技術的な視点	事実確認事項
安全の確保		リスク(一般操業時における一般公衆・労働者に対する被ばく等)の大きさに違いはあるのか	再処理施設・プルサーマル・中間貯蔵の安全確保はどうなっているのか。
		放射性廃棄物(ガラス固化体と TRU 廃棄物/使用済燃料)の処分の安全性に違いはあるのか。	
資源節約性及び供給安定性 (エネルギーセキュリティ)	サイクルによるウラン資源の節約効果(供給安定性への寄与)は有意なものといえるのか。		世界のウラン需給の見通し、ウラン資源量、供給能力の見通しはどうなっているのか。
			サイクルによるウラン資源節約の効果 ウランや化石燃料の購入交渉のバーゲニングパワーにサイクルの寄与はあるのか。
			ウラン備蓄により、サイクルの供給安定性の効果は代替できるのではないか。
環境適合性	循環型社会への適合性に違いはあるのか。		放射性廃棄物の体積、放射エネルギー、発熱量、被ばく量、処分場面積の比較
			ライフサイクルにおける二酸化炭素放出量の比較
			高速炉を用いた核種変換による廃棄物処分の負担軽減の実現可能性はどの程度あるのか。
経済性	経済性の違いをどのように評価するか。	核燃料サイクルのコストはどれくらい違うのか。	
核不拡散性	平和利用を担保(プルトニウムの利用目的の明確化)するにあたって優劣はあるのか。		保障措置・核物質防護の適応性の比較
技術的成立性		システムとしての成立性はあるのか(必要な施設が必要な時期に立地できるのか。) ・ 廃棄物発生量と対応する処分場 ・ 使用済燃料の発生量と対応する貯蔵あるいは処理施設 ・ 第二再処理工場の取扱 ・ 回収ウランの取扱 ・ 軽水炉 MOX 使用済燃料の取扱 ・ 高速増殖炉の実用化見通し 等	長期的な世界のエネルギー需給見通し 直接処分場の技術的知見の蓄積状況
		国内で直接処分場の成立するための技術的な問題点はあるのか。	
社会的成立性 (社会的受容性)	電力自由化に伴い事業者の経済的環境が厳しくなる中で、経済的負担の大きいサイクルを伴う原子力関連投資にどのような影響があるのか。		

	政策的な視点	技術的な視点	事実確認事項
社会的成立性 (社会的受容性)	必要な施設(特に、処分場)が適切な時期に立地が可能なのか。立地地域と良好な関係を形成・維持できるのか。		
	国民の生活レベルを維持するための選択として違いがあるのか。		
	国民の安心感に違いはあるのか。		
選択肢の確保(柔軟性)	再処理を先延ばしにした場合、将来の選択肢を狭めないための必要な技術や人材の維持はできるのか。		
	再処理を中止した場合、技術や人材の損失をどう考えるか。再度実施しようとしても、技術、人材、国際的な観点の面で再開できない可能性はないか。		
	不確実性のリスクに対する抵抗力を有するか。(漸進的アプローチと革新的アプローチ)		
政策変更に伴う課題	核燃料サイクル政策を変更する場合の影響の評価 <ul style="list-style-type: none"> <li>原子力発電所から六ヶ所再処理工場への使用済燃料搬出ができなくなり、原子力発電所が停止する可能性</li> <li>返還高レベル放射性廃棄物一時貯蔵施設等、六ヶ所サイトの放射性廃棄物関連施設が成立しなくなる可能性</li> <li>これまで国の政策に協力してきた立地地域との信頼関係に対する影響をはじめとする、立地地域への社会的経済的影響。</li> <li>民間事業者のこれまでの核燃料サイクルへの投資等への対応</li> </ul>		これまでの民間事業者の核燃料サイクルへの投資額のうち回収不可能額はどのくらいか
海外の動向			海外各国の政策との比較(海外ではサイクルを選択している国は少ないのではないかと。そのような状況で日本が選択すべき理由はあるのか。)